



年頭のごあいさつ

明けましておめでとうございます。

公益財団法人全国市町村研修財団の運営につきまして、旧年中に賜りました御理解、御協力に深く感謝申し上げます。

はじめに、昨年度は大規模災害の多い一年でした。各種の災害に直面し、その復旧・復興に御尽力をされている多くの皆さまに敬意を表しますとともに一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

また、それぞれの自治体におかれましては、被災地に向けて職員派遣などの可能な限りの御支援をいただいておりますことに感謝申し上げます。

さて、今年が平成最後の年となります。平成の時代は、振り返りますと阪神・淡路大震災や東日本大震災などの大規模災害が発生し、そしてバブル崩壊やリーマンショックなど経済的にも激動の時代でした。人口減少や少子高齢化の進行など、長期的な課題が顕在化するとともに、地方自治の分野では、地方分権一括法の制定により、市町村の役割が一層重要なものとなりました。

今後、市町村では、的確な分析力と政策立案能力を備え、地域の実情を踏まえた施策を構築していかなければなりません。そのためには、今まで以上に意欲と能力・実力を兼ね備えた職員が求められます。

当財団では、市町村アカデミーと国際文化アカデミーにおいて、市町村職員をはじめ首長、議員等を対象とした専門性の高い最先端の英知・情報を提供する研修を行っており、両アカデミーを合わせますと受講者はのべ23万人を超え、全国レベルのネットワークが形成されています。

引き続き、時代の変化に対応し、地域の安心・安全の確保、住民福祉の向上、地域の活性化など、多種多様な課題に適切に対応していくことができるよう、地域社会の担い手となる人材の育成に全力で取り組んでまいりますので、皆様の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます、年頭のごあいさつとさせていただきます。

公益財団法人 全国市町村研修財団

理事長

立谷 秀清

(全国市長会会長 福島県相馬市長)